

## 財政収支(1-3月)

(1) 3月の歳入は前年同期比75.1%増、税収は同78.4%増。歳出は前年同期比77.9%増。  
 (2) 結果として3月の財政収支は308.09億リラの黒字(前年同期比35.2%増)、プライマリーバランスは1,156.48億リラの黒字(同61.3%増)。

データ:財務省 単位:億リラ

歳入・歳出内訳	2021年1-3月(A)	2022年1-3月(B)	増加率 ((B-A)/A)
歳入(a)	3,441.15	6,025.24	75.1%
税収	2,550.98	4,551.57	78.4%
所得税	482.82	687.46	42.4%
法人税	399.89	1,028.76	157.3%
付加価値税(国内及び輸入)	755.82	1,491.38	97.3%
特別消費税	479.81	658.35	37.2%
その他税収	432.64	685.62	58.5%
税外収入等	8.90	14.74	65.5%
歳出(b)	3,213.36	5,717.15	77.9%
人件費	877.54	1,304.20	48.6%
物品及びサービスの購入	169.12	304.64	80.1%
経常移転	1,337.82	2,239.99	67.4%
資本支出	100.06	163.55	63.5%
支払利子(c)	489.28	848.39	73.4%
その他歳出	239.54	856.38	257.5%
財政収支(a-b)	227.80	308.09	35.2%
基礎的財政収支(a-(b-c))	717.08	1,156.48	61.3%

## 経常収支(2022年1-2月)

(1) 2022年1-2月の経常収支は、121.36億ドルの赤字(前年同期は42.50億ドルの赤字)。  
 (2) 2022年2月の貿易収支(物品)は143.48億ドルの赤字で前年同期から赤字幅拡大、旅行収支は27.29億ドルの黒字で前年同期から黒字幅拡大。

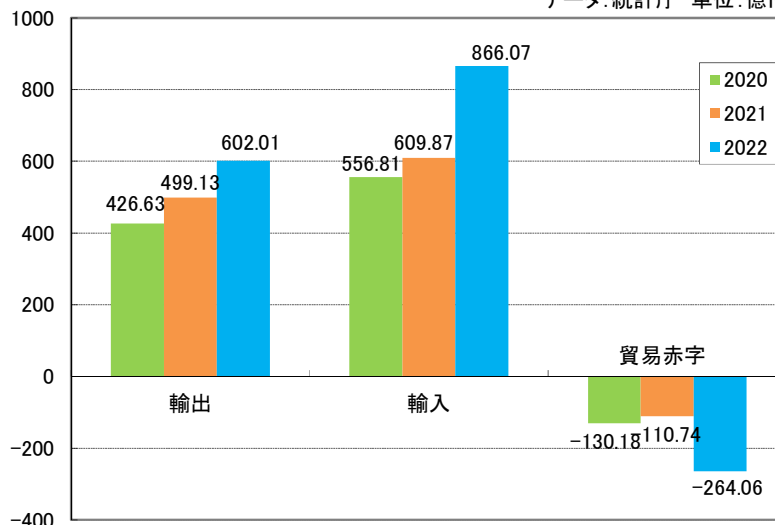
データ:中央銀行 単位:億ドル

内訳	2021年1月-2月(A)	2022年1月-2月(B)	増加率 ((B-A)/A)
経常収支	▲ 42.50	▲ 121.36	▲ 185.6%
貿易収支(物品)	▲ 40.06	▲ 143.48	▲ 258.2%
サービス収支	13.90	33.79	143.1%
旅行収支	11.01	27.29	147.9%
第1次所得収支	▲ 17.88	▲ 11.94	33.2%
第2次所得収支	1.54	0.27	▲ 82.5%
労働者送金	0.22	0.53	140.9%
資本移転等収支	▲ 0.19	▲ 0.01	94.7%
金融収支	▲ 13.96	▲ 141.53	▲ 913.8%
直接投資	▲ 9.94	▲ 4.77	52.0%
証券投資	▲ 52.89	15.31	128.9%
その他投資	3.92	▲ 120.47	▲ 3173.2%
外貨準備	44.95	▲ 31.60	▲ 170.3%
誤差脱漏	28.73	▲ 20.16	▲ 170.2%

## 貿易収支(1-3月)

(1) 1-3月の輸出額は602.01億ドル(前年同期比20.61%増)、輸入額は866.07億ドル(同42.01%増)となり、この結果、貿易収支は264.06億ドルの赤字(同138.45%赤字幅拡大)となった。  
 (2) 1-3月の輸出額におけるEU向け輸出の占める割合は42.7%(前年同期は42.4%)、輸入額におけるEUからの輸入の占める割合は25.5%(前年同期は34.2%)となっている。

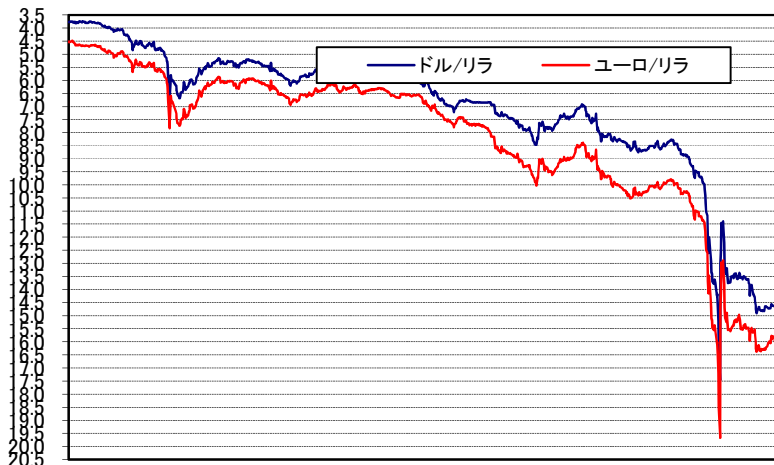
データ:統計庁 単位:億ドル



## 為替(4月)

ウクライナ情勢や各国で利上げが進める中での政策金利据え置き等の為替を変動させる要因はあったが、為替は大きく変動しなかった。月末は1ドル=14.78リラ(前月末比1.0%安)、1ユーロ=15.61リラ(同4.3%高)となった。

データ:中央銀行 単位:リラ



18/118/418/718/1019/119/419/719/1020/120/420/720/1021/121/421/721/1022/122/4

データ:統計庁 単位:前年同月比(%)

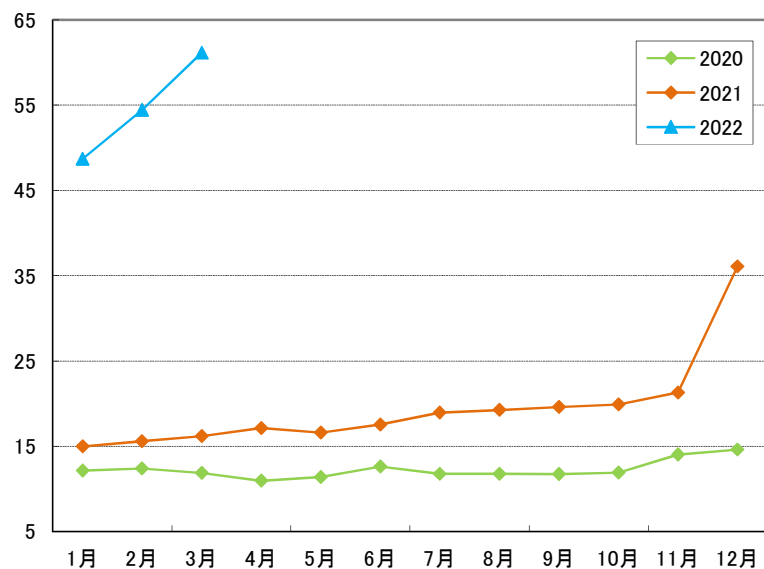
## 消費者物価上昇率(3月)

(1)3月の消費者物価は前年同月比61.14%増、前月比5.46%増。

(2)項目別にみると、輸送が前年同月比99.12%、前月比13.29%で最も上昇した。

(3)2022年末のインフレ率の中銀目標(4/28時点)は前年同月比42.8%。

(4)国内生産者物価指数は前年同月比114.97%増、前月比9.19%増となった。



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

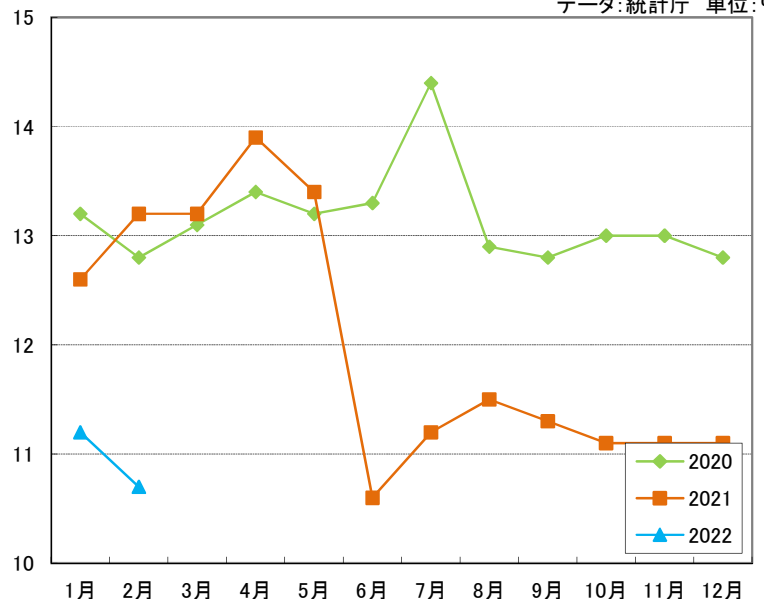
## 失業率(2月)

(1)2月の失業率(季節調整後)は10.7%となり、前月から0.5ポイント減少した。

(2)労働力人口は3358.5万人、就労者数は3,000.6万人、失業者数は357.9万人。

(3)男性の失業率は9.3%、女性は13.4%。若年層(15-24歳)の失業率は20.7%となっている。

データ:統計庁 単位:%

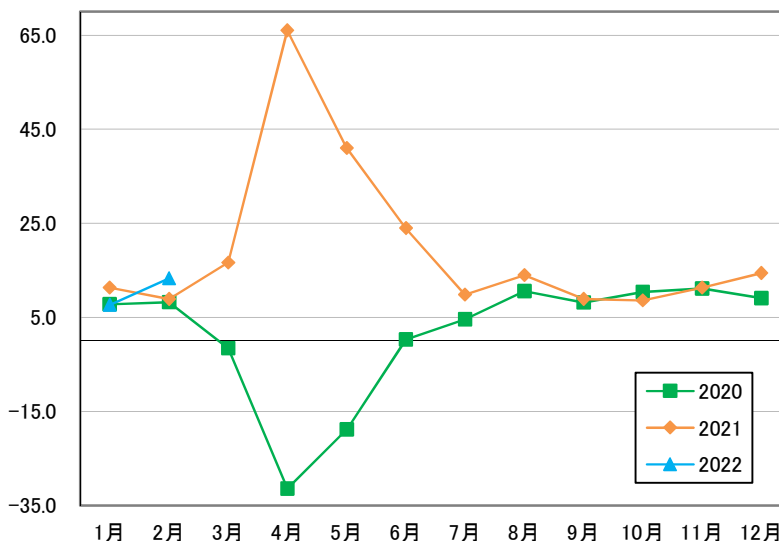


1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

## 鉱工業生産(2月)

(1)2月の鉱工業生産指数は、前年同月比(日数調整後)13.3%増、前月比(季節及び日数調整後)4.4%増。  
 (2)分野別では、耐久消費財が前年同月比18.9%増、資本財が同13.3%増、中間財が同11.9%増となった。

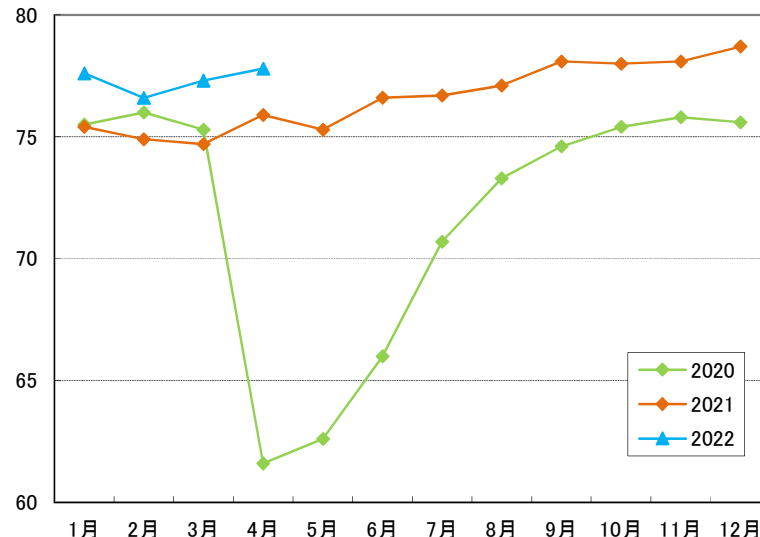
データ:中央銀行 単位:前年同月比(%)



## 設備稼働率(4月)

(1)4月の設備稼働率は77.8%となり、前年同月から1.9ポイント上昇し、前月から0.5ポイント上昇。  
 (2)製造業の分野別では、紙及び紙製品製造業(87.4%)が最も稼働率が高く、機械器具修理・設置業(65.9%)が最も低い稼働率であった。

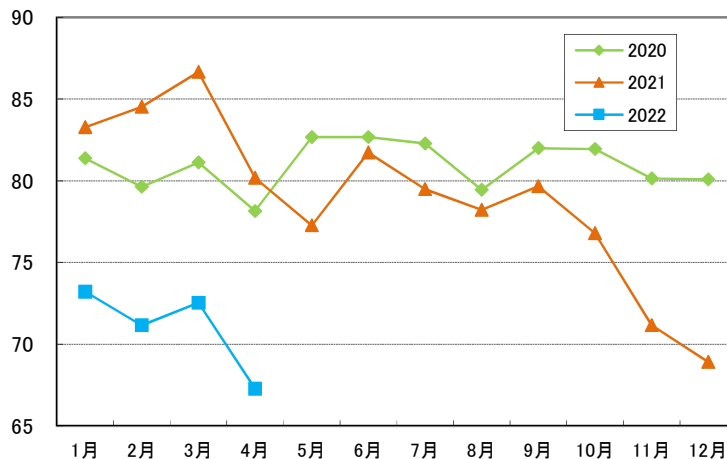
データ:中央銀行 単位:%



## 消費者信頼感指数(4月)

(1)4月の消費者信頼感指数(季節調整値)は67.3ポイントで、前月から5.2ポイント減少。  
 (2)内訳では、「現在の家計の財政状況」、「今後12か月間の家計の財政状況見通し」、「今後12か月間の一般経済状況見通し」及び「今後12か月間の耐久消費財への支出見通し」は前月から減少した。

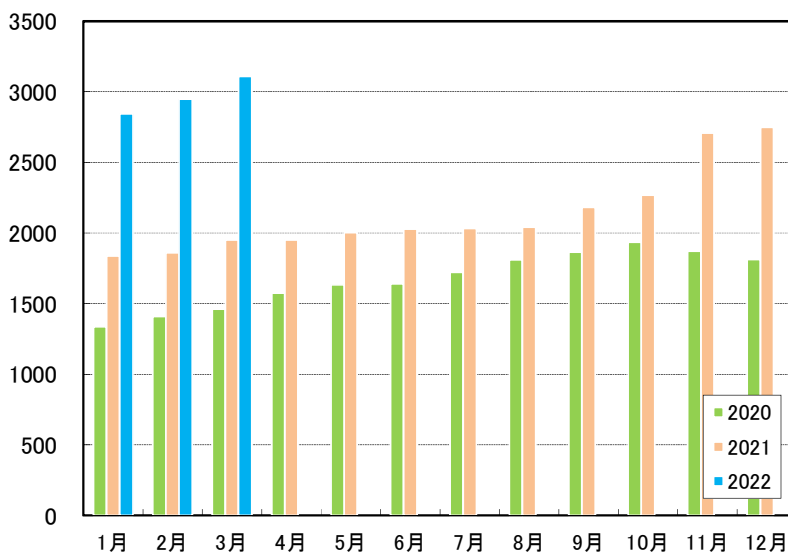
データ:統計庁 単位:ポイント



## 中央政府債務残高(3月)

(1)3月末時点での中央政府債務残高は3兆1,094億リラとなり、前月比5.5%増、前年同月比59.5%増となった。  
 (2)また、国内債務比率は47.7%、自国通貨債務比率は33.8%(2021年末は34.0%)となっている。  
 (3)なお、債務残高のうち円は1.2%で、外貨ではドル、ユーロに次ぐ地位を占めている。

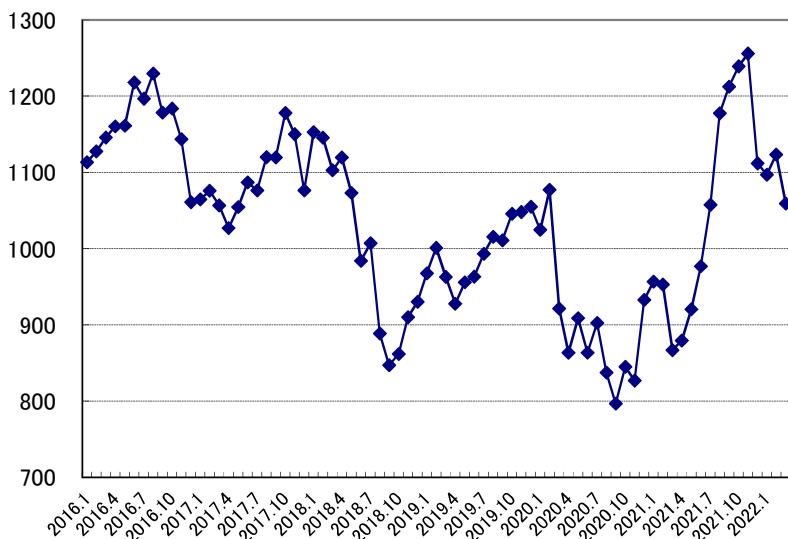
データ:財務省 単位:10億リラ



## 外貨準備高(3月)

(1)3月末時点での中央銀行の外貨準備高(金を含む)は1,059.18億ドルとなった。  
 (2)前月から64.17億ドル減少した。

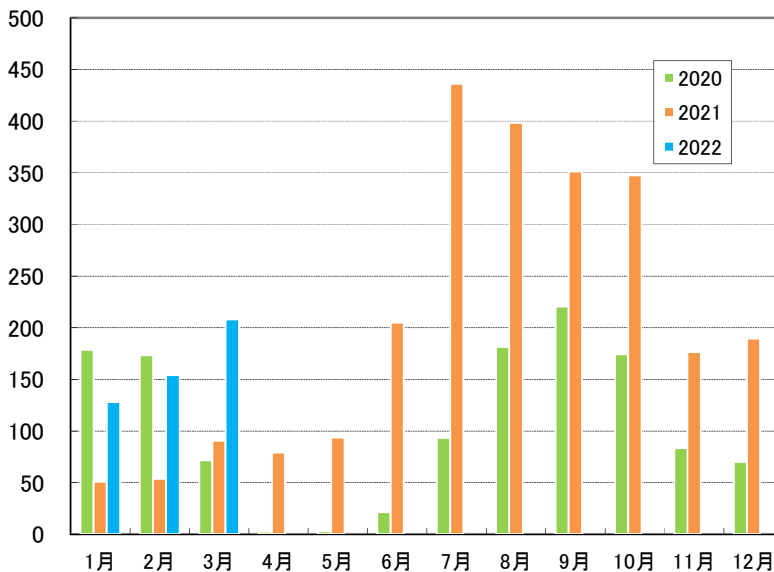
データ:中銀 単位:億ドル



## 外国人訪問者数(3月)

(1)3月の外国人訪問者数は2,079,565人で、前年同月比129.70%増。日本は1,235人であった(前年同月は329人)。  
 (2)国別ではイランが最も多く、274,815人で全体の13.22%を占め、以下、ドイツ(187,185人)、ブルガリア(169,640人)となっている。

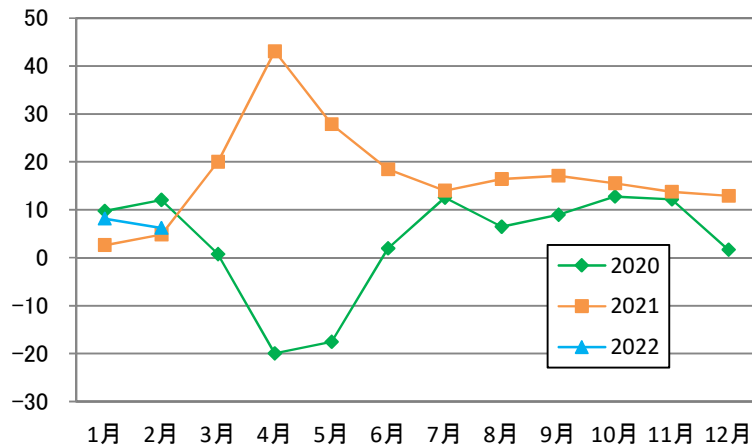
データ:文化観光省 単位:万人



## 小売売上高(2月)

データ:統計庁 単位:前年同月比(%)

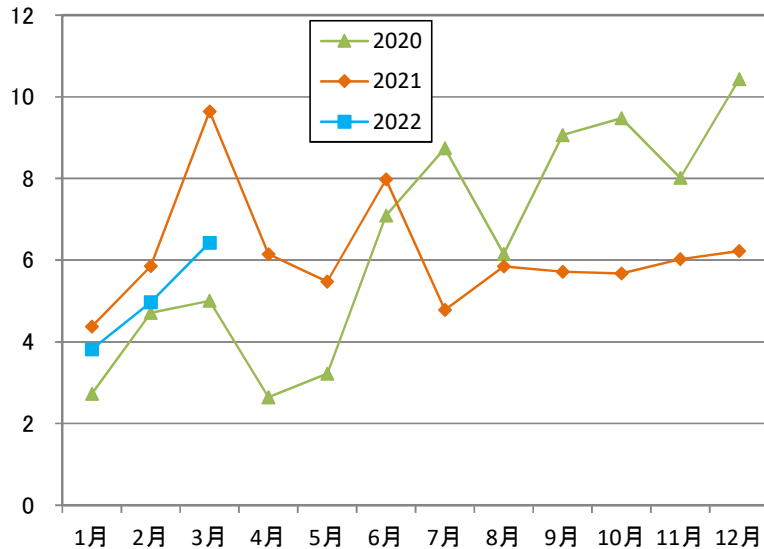
(1)2月の小売売上高は前年同月比(日数調整後)6.2%増、前月比(季節及び日数調整後)0.5%増。  
 (2)内訳は食品・飲料・タバコが前年同月比0.6%減、繊維・衣料が同31.2%増、コンピュータ・書籍・通信機器が同2.7%増となった。



## 新車販売台数(3月)

データ:自動車販売協会 単位:万台

(1)3月の新車販売台数は64,267台で前年同月比33.35%減。  
 (2)3月の内訳は乗用車が50,173台(前年同月比34.3%減)、小型商用車が14,094台(同29.8%減)となった。



## 住宅販売戸数(3月)

データ:統計庁 単位:万戸

(1)3月の住宅販売戸数は134,170戸で前年同月比20.61%増となった。  
 (2)3月は新築が33,365戸(前年同月比14.9%増)、中古が77,876戸(同23.1%増)。  
 (3)3月の住宅ローンでの購入は21,815戸(前年同月比38.8%増)、その他が89,426戸(同16.2%増)。

